

〈新型コロナウイルス感染症に関する対応〉

メッセージポスターの公開と活用について

浄土真宗本願寺派では、新型コロナウイルス感染症に関する対応の一環として、「新型コロナウイルスの感染拡大に伴うすべての人へのメッセージポスター」を作成しています。

メッセージポスターは、『本願寺新報』に掲載のうえ、より多くの人にメッセージが届くよう、浄土真宗本願寺派HPにも公開し、ポスターデータやメッセージの詳細を掲載しています。ここでは、第1回と第2回公開分について報告いたします。

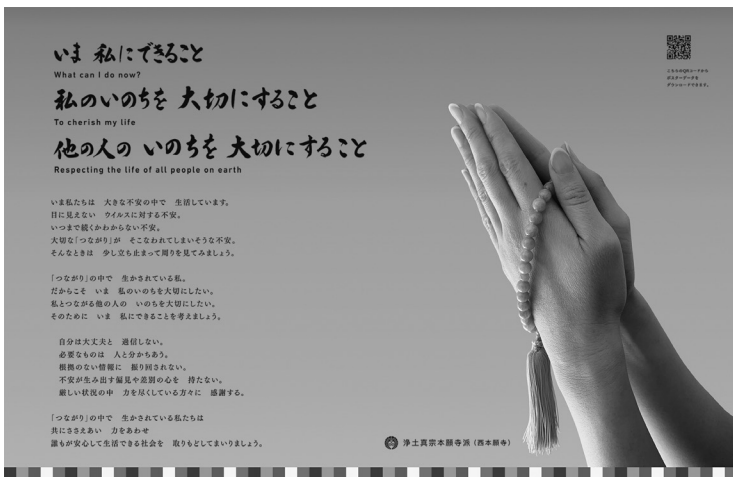
第1回ポスター

第1回は、「いま私にできること」と題して、さまざまな不安が社会に渦巻く中で、一度立ち止まって周りを見ること

を訴えています。公開以来、さまざまな場面でご利用いただいております。各ご寺院や宗門校、各種団体などでも掲示され、その様子がHPやSNSなどで紹介されるなど、「いま私にできること」が、さまざまな媒体やツールを使いながら発信されています。

宗門外からもこのポスターが評価されています。例えば、宗教情報センター研究員の藤山みどり氏は、2020年5月17日に研究員レポート「新型コロナウイルスに対して宗教界はどう対処せよと説いたか？」を公開しています¹。

藤山氏は、さまざまな宗教団体の取り組みを紹介する中、浄土真宗本願寺派（西本願寺）の「新型コロナウイルスの感染拡大に伴うすべての人へのメッセージポスター」を取り上げ、「コピー



・本願寺新報2020年5月1日号掲載
・2020年4月23日HP公開



伝道第二本部に掲げられた懸垂幕

に難解な仏教用語は皆無である」と述べています。しかし、「新型コロナウイルス感染症に関する『念仏者』としての声明」（4月14日公開、同じく『本願寺新報』2020年5月1日号に英語版とともに掲載）と照らし合わせることで、「つながり」という言葉が仏教用語「縁起」を意味していることを指摘し、「共に支え合い、力を合わせることを呼びかけたものとまとめられています。ここでは一般向けの平易な内容でありながら、仏教の智慧を土台とするメッセージとなっていることが評価されています。

なお、宗派としては、医療従事者への感謝を示した懸垂幕とともに、ポスターのメッセージ文である

「いま私にできること

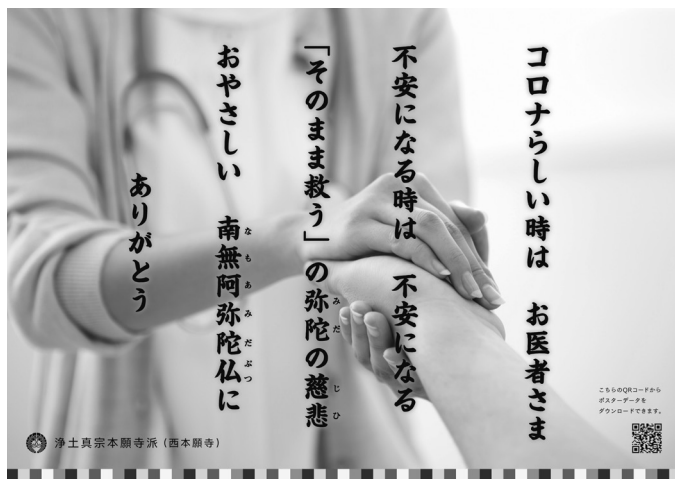
私のいのちを大切にすること

他の人のいのちを大切にすること」

を、堀川通沿いの伝道第二本部に掲げています（『宗報』2020年6月号表紙参照）。また築地本願寺新報2020年6月号などにもポスターが掲載されています。

第2回ポスター

第2回は、横置き「おやさしい 南無阿弥陀仏に ありがとう」と、縦置きの2種「ともに響き合う世界」「分かち合える世界」の3つを公開しました。第1回は、メッセージ文の下に副文を添えていましたが、紙面上だけでは、情報量が限定されるため、第2回では、QRコードを活用して、HPにて【メッセージ文について】を掲載しています。QR



・本願寺新報2020年6月1日号掲載
・2020年5月26日HP公開

第2回ポスターのアンケートを実施

第2回のポスターも、各お寺の掲示板

コード先のHPには、ポスターの内容を理解するための説明文などがありますので、ぜひともご参照ください。



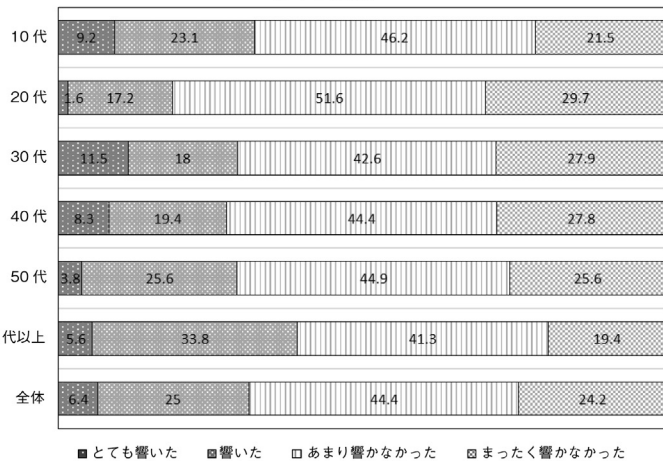
ポスター全体の印象として、心に響い

性別	男性	女性				
年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
女性	59	40	12	12	15	32
男性	4	6	2	8	4	0
	6	0	2	8	6	0

〈調査対象〉 一般生活者500名

に貼られています。ポスターの制作に関しては、さまざまなご意見があることと思いますが、一般の方の率直な反応を知るため、簡単なアンケートを実施いたしました（2020年6月、インターネット調査会社を利用して実施。回答者数は500名）。調査内容は、メッセージポスター（「おやさしい 南無阿弥陀仏に ありがとう」）が、一般生活者の心に響いているかを尋ねたもので、また言葉の意味が伝わっているかも併せて聞いています。

＜年代別＞



たかどうかを聞いたところ、次のような結果となりました（図1は年代別割合を示したものを）。

- ・とても響いた……………6・4%
- ・響いた……………25・0%
- ・あまり響かなかった……………44・4%
- ・まったく響かなかった……………24・2%

図1 ポスターが心に響いたか

<年代別>

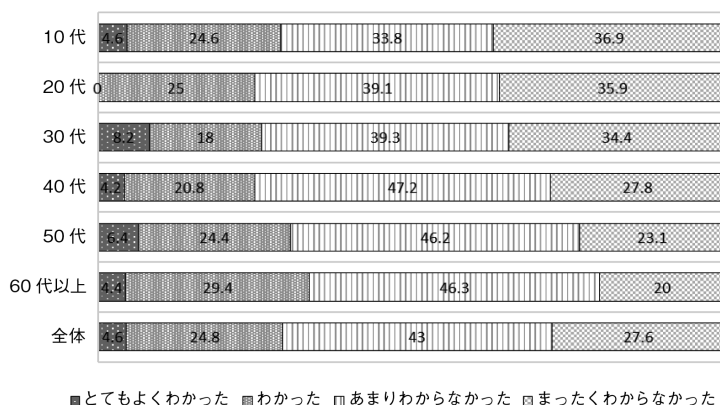


図2 言葉の意味はわかったか

また、言葉「そのまま救う」の弥陀の慈悲」の意味がわかったかどうかを聞いたところ、次のような結果となりました(図2は年代別割合を示したものを)。

- ・とてもよくわかった……………4・6%
- ・わかった……………24・8%
- ・あまりわからなかった……………43・0%

・まったくわからなかった: 27・6%

回答者が、僧侶や門信徒に限らない一般の方であることを考慮すると、約3割の方に伝わったともいえます。しかし、その一方で約7割の方には伝わらなかったという事実は、重く受け止めなければなりません。また、伝わったと答えた年代は、10代や60代以上が多く、その中間の世代の数字がやや低いことにも注意が必要です。特に20代は顕著で、「ポスターが心に響いたか」では「とても響いた」響いた」をあわせても2割に満たず、言葉の意味が「よくわかった」と答えた方は0%でした。20代〜50代は、これから寺院の護持や仏事を担っていく世代とその子の世代であり、厳しい現状が結果として出ています。

従来から、伝道教化の取り組みの中で、さまざまな工夫がなされ、近年はSNSなどを活用した「お寺の掲示板」への注目度も高まっています。そして、先に紹介した藤山氏のレポートからもわか

るように、仏教教団・宗教教団は、今回の新型コロナウイルス感染症への対応として、さまざまなメッセージを発信してきました。そのような中で、浄土真宗や仏教における根本ともいえる言葉がなかなか伝わっていない現状が浮かびあがってきました。

以前から、この課題は認識されていた。真宗教団連合では、2017年度と2018年度に「浄土真宗に関する実態把握調査」を行い、それぞれHPで結果報告書を公開しています²。そこでも、浄土真宗の重要な用語が認知されていなかったり、意味まで理解している割合が低かったりという結果が出ていました。今一度、本当の意味で「伝わる」伝道を目指していかなければならないことが、結果として示されています。

今後の取り組みに向けて

新型コロナウイルス感染拡大の中で、多くの方が感染症に罹患し、昨日まで元



国際センターの掲示板に張り出されたメッセージポスター

気がった方が亡くなられていく現実に向
面し、私たちは、自分のいのちが、いか
にあやうい土台の上にあるのかを知らさ
れました。他人との助け合いのなかで生
きていることを知っていたはずが、自分
中心の心で生きてきたことを、まざまざ
と突きつけられました。最前線で病への
不安と闘いながら温かい手をさしのべる
医療従事者や、生活必需品を生産し私た
ちのもとに送り届けてくださる多くの

方々の支えによって、生きているとい
うことを実感しました。

私たちは、最前線で役に立つことはな
かなかできませんが、仏さまの教えを聞
くものとして、せめて人々の不安を知
り、不安を聞き、不安を受け止めること
はできるのではないでしょうか。一人で
も多くの方の不安を、少しでも和らげる
ためにも、宗教者として、僧侶として、
仏さまのこころばを届け、そして「伝わ
る」メッセージを発信し続ける。このこ
とが、いま私たちにできることのひとつ
です。今後も、私たちのいのちを支える
方々に感謝しつつ、さまざまに取り組み
を進めて参りたいと思います。

1 宗教情報センターHP参照。

[https://www.circam.jp/reports/02/
detail/id=8111](https://www.circam.jp/reports/02/detail/id=8111)

2 真宗教団連合HP参照。

[https://www.shin.gr.jp/activity/
event/800/index.html#report](https://www.shin.gr.jp/activity/event/800/index.html#report)

「新型コロナウイルスの感染拡大に伴うすべての人へのメッセージポスター」は、『本願寺新報』および浄土真宗本願寺派HP「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する対応について」（<https://www.hongwanji.or.jp/news/cat5/000816.html>）に掲載しています。ポスターのQRコードから、データのダウンロードおよびメッセージ文の詳細を確認できますので、併せてご活用ください。



ポスターのデータと
メッセージの詳細は
ホームページに掲載しています。

浄土真宗本願寺派 HP

「新型コロナウイルスの感染拡大に伴うすべての人へのメッセージポスター」QRコード